

第 53 回(平成 23 年度)全国社会教育研究大会京都大会について

I 第 53 回全国社会教育研究大会京都大会全体会 報告

- 1 日 時 平成 23 年 9 月 21 日 (水) 9 : 00 ~ 開会行事は、13 : 00 ~
- 2 場 所 京都会館
- 3 参加者 全国の社会教育委員、行政関係者等 約 800 名
- 4 内 容
 - ※アトラクション
 - 語りと邦楽のコラボ
 - 語り : 「ひとりものがたり」 六嶋 由美子 氏 (宇治市文化センター理事)
 - 邦楽 : 尺八 山口 秋月 氏 琴 山口 朋子 氏
 - (1) 開会行事
 - 開会宣言
 - 国歌斉唱
 - 主催者挨拶 全社連 : 大橋謙策会長
京都大会実行委員会 : 杉本厚夫委員長
 - 祝辞 文科省生涯学習政策局 : 杉野生涯学習総括官
京都府 : 山内副知事
府議会 : 近藤議長
 - 表彰 社団法人全国社会教育委員連合表彰
 - 閉会宣言
 - (2) 基調講演
 - 演題 「度重なる震災からわたしたちが学ぶべきこと」
 - 講師 鷺田 清一 氏 (前 大阪大学総長)
 - (3) シンポジウム
 - テーマ 「震災を受けて社会教育は何ができるのか？」
 - シンポジスト 内藤 正明 氏 (京都大学名誉教授)
宮本 勝浩 氏 (関西大学大学院教授)
宮嶋 泰子 氏 (テレビ朝日アナウンサー)
菅原 敏元 氏 (宮城県社会教育委員連絡協議会会長)
 - コーディネーター 杉本 厚夫 氏 (京都府社会教育委員連絡協議会会長)
 - (4) 閉会行事
 - 次期開催地挨拶 山梨県社会教育委員連絡協議会 : 宇野会長
 - 閉会挨拶 京都大会実行委員会 : 本城副実行委員長

<所感>

みなさんの御努力で最終的には 1,300 名程度の参加予定でしたが、台風の影響により、当日の参加者は、800 名余りだったようです。この点では残念でしたが、特に震災に関わった内容の良い講演・シンポジウムであったとの声を参加者の皆様から、口々に伺い、中身の濃い全体会になったのではないかと思います。

II 第 53 回全国社会教育研究大会京都大会分科会 報告

- 1 日 時 平成 23 年 9 月 22 日 (木) 9 : 15 ~
- 2 場 所 ガレリアかめおか
- 3 参加者 全国の社会教育委員、行政関係者等 約 350 名

4 内 容

- (1) ポスターセッション コンベンションホール
京都府から 12 本（南丹 5・中丹 3・丹後 4）
府外から 4 本（和歌山 3・鳥取 1） 計 16 本のポスター発表がありました。
- (2) パネルディスカッション
（各パネルディスカッションとも各府県のコーディネーター 1 名、パネリスト 3 名で構成）
第 3 分科会 テーマ「自分（社会教育委員）を育てる」～南丹ブロック担当
＜討議の視点＞
 - ①「社会教育委員の活動は、どのような現状にあるか。」
 - ②「求める・求められる社会教育委員像とは、どのようなものか。」第 4 分科会 テーマ「親を育てる」～中丹ブロック担当
＜討議の視点＞
 - ①「子育てをとおして、親同士がつながりと学びを深めるにはどうすればよいか。」
 - ②「親以外の大人も子育てに関わることでできる地域コミュニティを育てるにはどうすればよいか。」第 5 分科会 テーマ「組織を育てる」～丹後ブロック担当
＜討議の視点＞
 - ①「学校・家庭・地域の諸団体が連携することにより、組織の活性化や活動の充実をいかに進めればよいか。」
 - ②「地域の子どもたちを地域で育てるための組織としての人材育成をどのように進めればよいか。」※ロビーでは、亀岡市商工会議所のとりまとめによる亀岡市の業者と南丹市から 1 社（井筒八ッ橋本舗）が物産店を出店しました。

＜所感＞

- *当初 500 名余りの参加予定が、台風の影響で、実際には 350 名程度になりました。
- *運営に対する意見が出ていました。
ポスターセッションとパネルディスカッションの開催時間帯が重なっていたため、参加者が途中からパネルディスカッションに参加し、ポスターセッション参加者が減ってしまったこと等。
- 全体会も分科会も、それぞれ 100 名近い要員のみなさんにお世話になりました。大きな事業を終えるごとに、人の力が結集したときのその大きさを痛感し、ありがたく思いました。
- 参加者は減りましたが、この全体会では、震災と社会教育（委員）を結びつけて、社会教育（委員）にできることをタイムリーに研修したこと、分科会では、主体的な参加形態であるポスターセッションを採用したこと、分科会のテーマも現代的な課題に視点を当てて社会教育委員との関わりを今までより意識する形で設定したことなど、会長が言われる京都から新しい社会教育のあり方を発信するということに近づけたのではないかと思います。

第 26 回国民文化祭 京都 2011 (南丹市開催事業)について

「第26回国民文化祭・京都2011」美術展「工芸」の記録

1. 開催概要

■開催日時／	平成 23 年 10 月 29 日～11 月 6 日
■会 場／	南丹市立文化博物館、南丹市国際交流会館 他
■来場者数／	11, 250 人
■出 展 数／	3, 930 点
■主 催	文化庁、京都府、京都府教育委員会、南丹市、南丹市教育委員会、 第 26 回国民文化祭京都府実行委員会、第 26 回国民文化祭南丹市 実行委員会

2. 開催主旨・状況

様々な分野の工芸作品を全国募集し、審査・表彰・展示を通じて全国の工芸に携わる人々の交流の場をつくり、新しい芸術文化の創造を促すことを目的として、美術展「工芸」を開催しました。

南丹市では、「国民文化祭・京都2011」の開催を一つの目標とし、関係機関との連携によって子どもたちの美術工芸教育や地域文化を結び付け、展示・発表や体験ワークショップ等を総合的に展開する『美と和で輪ぶ京都丹波文化ジョイントプログラム』事業を過去 4 年にわたり開催してきました。

本市実行委員会や企画委員会では、これらの取り組みを活かしながら、祭典の開催に南丹市らしさを織り交ぜようと協議を重ね、南丹市の彩り豊かな歴史と文化、自然環境の中で、手間と時間をかけ高度な技術によって生み出された工芸作品や工芸家の活動を、全国の方々に知っていただくとともに、市民レベルの“ものづくり力”や“ものを大切に使う心”を高め、「ものづくりのまち」としての魅力を発信するため、盛り上げを図りながら、本番大会を迎えました。

3. まとめ

美術展「工芸」においては、陶芸・木工・竹・漆・染織・ガラス・紙・金工・その他の部門を設けて公募した結果、全国から 158 点の作品が寄せられました。9 月 17 日（土）に開催された審査の結果、文部科学大臣賞を始めとする 10 点の入賞、48 点の奨励賞、46 点の入選が決定し、10 月 29 日（土）～11 月 6 日（日）までの 9 日間にわたり、南丹市立文化博物館において計 104 点の入選作品の展示を行いました。

また、この事業にあわせて、「京都工芸美術作家協会展」の南丹市巡回展が開催されました。本協会は、京都府内で活躍される会派を超えた工芸美術作家により組織され、設立 65 周年を迎えた今年、「今日から明日へ」をテーマに開催された京都展から、214 点を国民文化祭の開催にあわせた巡回展として展示いただいたものです。このほか、総合的に開催したジョイントプログラム事業をはじめとし、こどもから大人、アマチュアからプロまで、様々な人々の参画による各種展示会や、自分の手で物をつくる楽しみを体感できる「ものづくり体験」、地域の食文化を結集し“食のものづくり”を堪能いただく「南丹食の祭典」などを実施し、多彩なイベントで多くの来場者を迎えることが出来ました。

4. プログラム

◆美術展「工芸」審査会 9月17日(土) 9:30~14:00

(審査)

○美術展「工芸」審査員

森口 邦彦、中川 清司、清水 保孝、下出 祐太郎、唐澤 昌宏

○審査経過

審査開催日：9月17日(土)

審査会場：南丹市国際交流会館

応募作品158点から、第1次審査により入選作品104点を選別し、その中から上位10点を入賞作品、48点を奨励賞作品、46点を入選作品として決定しました。

○受賞者および作品名

- ・文部科学大臣賞 古家 喜義「柘造深鉢」
- ・国民文化祭実行委員会会長賞 宇都 遙香「茜染・大振袖」
- ・京都府知事賞 前野 嵩弘「乾漆平文漆箱 垂滴」
- ・第26回国民文化祭京都府実行委員会会長賞 市野 秀作「黄釉彩大鉢」
- ・京都府議会議長賞 松岡 裕治「柘縮杳造り蓋物」
- ・京都府教育委員会教育長賞 笠井 典子「円の園」
- ・南丹市長賞 東 福太郎「嘉来 胴丸総桐柿洪仕上げ」
- ・第26回国民文化祭南丹市実行委員会会長賞 大西 恒夫「乾漆彫刻時絵盛器 春さかり」
- ・南丹市議会議長賞 藤原 由妃「綾織着物「月夜」」
- ・南丹市教育委員会教育長賞 鈴木 里穂「宮の夜」

◆ 国民文化祭・京都 2011 南丹市会場 総合開会式

10月29日(土) 10:00~12:00

【オープニングセレモニー】

合唱「微笑みの空」

出演：河鹿合唱団、府立園部高等学校・附属中学校合唱部

【式典】

挨拶：第26回国民文化祭南丹市実行委員会会長 南丹市長 佐々木稔納 他

【表彰】

- ・第5回南丹美術工芸教育展（ジョイントプログラム） 入賞者49人
- ・国民文化祭 審査委員長講評 表彰 美術展「工芸」入賞者10人

【閉会】

挨拶：第26回国民文化祭南丹市実行委員会副会長 南丹市議会議長 井尻 治

◆美術展「工芸」展示

10月29日(土)~11月6日(日) 南丹市立文化博物館

◆京都工芸美術作家協会展（南丹市巡回展）

10月29日(土)~11月6日(日) 南丹市立文化博物館

◆南丹食の祭典

10月29日(土)・10月30日(日) 南丹市国際交流会館周辺

◆灯りの祭典〜かやぶきの里からツナグ〜

11月3日(木) 美山かやぶきの里北集落

◆南丹市「我が校のものづくり」展

10月29日(土)~11月6日(日) 園部 B&G 海洋センター

※来場者数 1,978名(うち小学生710名、引率者90名)

※展示作品 977点(共同作品12点)

◆美と和で輪ぶ京都丹波文化ジョイントプログラム

◇南丹工芸文化祭

- ・市内工芸家による町家展
10月29日（土）・30日（日）園部町内町家
 - ・市民文化活動による作品展示
10月29日（土）～11月6日（日）南丹市国際交流会館、南丹市園部公民館
 - ・ものづくり体験
10月29日（土）・10月30日（日）南丹市国際交流会館
 - ・見てさわって遊べる展示
10月29日（土）・10月30日（日）南丹市国際交流会館
 - ・福祉施設で作製された商品展示、販売
10月29日（土）～11月6日（日）南丹市国際交流会館
- ◇南丹美術工芸教育展
10月29日（土）～11月6日（日）南丹市国際交流会館

◆迎え花

10月29日（土）～11月6日（日）南丹市立文化博物館、南丹市園部公民館他

◆おもてなし茶席

10月29日（土）・30日（日）、11月5日（土）南丹市国際交流会館、南丹市園部公民館

◆NPO法人京都匠塾企画（協働事業）

- ・第1回全国えんぴつけずり大会 11月5日（土）南丹市国際交流会館
- ・伝統工芸オークション 11月6日（日）南丹市国際交流会館
- ・南丹工芸シンポジウム「30年後のものづくり」11月6日（日）南丹市国際交流会館

「第26回国民文化祭・京都2011」 「工房と里の秋めぐり(里の秋マップ)」記録

1.開催概要

- 開催日時／ 平成23年10月29日～11月6日
- 会場／ 南丹市立文化博物館、南丹市国際交流会館、市内観光施設等

2.開催主旨・状況

市内外のより多くの方にわかりやすく国民文化祭の見所や南丹エリアの魅力を紹介し、多くの来訪をいただくきっかけを作るとともに、ふるさと南丹市への愛着を高めることを目的として、「工房と里の秋めぐり(里の秋マップ)」の作成に取り組みました。

企画委員会によるたくさんのアイディアや意見をもとに作成のコンセプトを練り上げ、多岐にわたる対象、目的があることから、マップを用途別に色分けするなど工夫を凝らし、各年層のニーズに対応したマップを作成すること、国民文化祭を契機に作成し、期間終了後も幅広く活用できる内容とすること、また、各関係機関との連携を図り、統一的なデザインを施すことで市の連帯感をかもし出すことなどを位置づけました。

さらに、より親しみやすく充実したマップづくりのため、市民からの投稿を募集することとあわせ、各年層にわたる市民レポーターを設置して、地域の“隠れたお宝探し”に取り組み、彩り豊かな南丹市の各種スポットを盛り込んだものとするをめざしました。

3.まとめ

工房と里の秋めぐり「里の秋マップ」は、「食べる」をテーマにした赤色マップ、「ふれる」をテーマにした青色マップ、「見る」をテーマにした緑色マップ、「遊ぶ」をテーマに

した黄色マップの4種類を作成し、「南丹いろいろマップ」と愛称をつけて発行しました。

マップには、若い感性を盛り込んだ学生の視点や、じっくりと楽しめる時間と余裕があるミドル世代の視点、親子で楽しめるスポットや地域を見つめた子育て世代の視点など、市民レポーターが地域を見て歩いて感じたことやインタビューによって収集された貴重な情報、公募に対して地元住民から寄せていただいた生き生きとした写真、お勧め情報やおもしろ情報などがピックアップされ、たいへん親しみやすい内容となりました。

祭典期間からメイン会場を始め市内各地に配置すると、多くの来場者等に興味深く見ていただき、特に観光地ではすぐに品切れになるところがあるほどでした。また、市民からもマップをもとに地域を廻りたいといった声も聞かれ、多くの反響がありました。

国民文化祭を契機に、全国から、南丹エリアの工房をはじめ様々なお宝スポットを知っていただき、訪れていただくとともに、マップの活用効果によりリピーターとして繰り返し来訪いただくことに繋がるよう、期待されるところです。

社会教育委員の公募について（募集状況等について）

南丹市社会教育委員の公募委員の募集並びに選定について

南丹市社会教育委員公募要綱に定める南丹市民の中から公募により選任する委員について、その募集並びに選定に関しては次のとおり定める。

I 公募委員の募集について

1. 公募資格

公募委員の応募資格は、次に掲げる要件のいずれも満たす者とする。ただし、国および地方公共団体の議員及び職員は応募することができない。

- (1) 南丹市内に住所を有する満 20 歳（平成 24 年 4 月 1 日時点）以上の者
- (2) 南丹市の社会教育行政に関する計画立案、調査研究等を行うための知見を有する者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行っている者、または行ったことがある者
- (4) 南丹市社会教育委員会に出席できる者

2. 公募委員数

公募委員数は 2 名以内とする。

3. 任期

平成 24 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで。（2 年間）

4. 募集方法

① 募集の期間 平成 23 年 11 月 1 日（木）～12 月 2 日（金）

② 募集の案内 次の方法により募集の案内を行う。

- (1) 平成 23 年 10 月 28 日（金）発行「おしらせなんたん」
- (2) 南丹市教育委員会ホームページ
- (3) C A T V による広報(11 月)

③ 掲載事項 募集案内には、必ず次に掲げる事項を掲載する。

- (1) 募集の趣旨
- (2) 応募資格
- (3) 応募人員
- (4) 任 期
- (5) 応募方法
- (6) 選考方法
- (7) 問い合わせ先

5. 応募方法

① 応募条件 応募しようとする者は、次の書類を提出するものとする。

- (1) 応募申込書
- (2) 課題に基づく作文（800 字以内）

作文課題：「社会教育の立場から、地域と学校がどのように連携することが大切か」

② 応募方法と締切

応募しようとする者は、次のいずれかの手法により応募できるものとし、12 月 2 日（金）午後 5 時までに社会教育課へ到着したものを有効とする。ただし、持参に限り各支所社会教育課地域担当においても受け付けるものとする。

- (1) 郵 送
- (2) E メール
- (3) 持 参

Ⅱ 選考会について

1. 選考会設置期間

平成23年12月3日から、選考が終了する日までとする。

2. 選考委員(順不同)

- ・(社会教育委員：上野嘉雄 氏)
- ・(社会教育委員：松本則子 氏)
- ・(教育委員会教委育次長：大野光博 氏)

3. 選考方法

選考の方法は、応募者から提出された書類に基づき、応募の動機、社会教育に関する知見及び家庭教育の向上に資する実践活動の内容を総合的に審査して行う。

- (1) 作文：テーマに合った作文であるか。自分の意見が十分に述べられているか。
- (2) 調書：いままでの経験や実践、社会教育の向上への意欲が感じられるか。
- (3) その他：応募動機やその他総合的に判断すべき要件。

なお、公募委員の選考にあたっては、出身地域が偏らないよう配慮する。

4. 選考結果

応募者全員に、選考結果の通知をする。なお、評価点数等については一切公表しないものとする。

Ⅲ 庶務

当該事務については、教育委員会社会教育課で処理する。

南丹市教育の在り方懇話会について（会議経過報告等について）

- 会議開催日：第 1 回 平成 23 年 6 月 2 日(木) 午前 10 時～
市役所 2 号庁舎 301 会議室
議題 ・ 提言依頼事項について
 ・ 南丹市教育ビジョンの策定に向けて
 ・ 南丹市のこれからの教育について
 ①南丹市の教育に求められるもの
 ②南丹市の学校教育に求められるもの
- 第 2 回 平成 23 年 7 月 22 日(金) 午前 10 時～
市役所 2 号庁舎 301 会議室
議題 ・ 第 1 回会議の概要報告
 ・ 南丹市の社会教育の現状について
 ・ 南丹市のこれからの教育について
 ①南丹市の社会教育に求められるもの
- 第 3 回 平成 23 年 12 月 6 日(火) 午前 9 時 30 分～
市役所 2 号庁舎 301 会議室
議題 ・ 第 2 回会議の概要報告
 ・ 提言書(案)について